

## 韓・日 現代陶芸に関する考察

慶星大学助教授  
権 相 仁

### はじめに

韓国と日本の現代陶芸は、異なった歴史的背景と社会環境による文化の差によって大きな違いがある。従って、私は1. 第二次世界大戦の前後までの状況、2. 1996年現在の両国陶芸文化の現況を通じて韓日両国の現代陶芸の差異を比較して私の考えを述べたい。

### 1. 第二次世界大戦の前後までの状況

A. 韓国：韓国には高麗(参照地図1<sup>1)</sup>)と李朝時代を通じて作って来た青磁、白磁、三島そして地方窯の各種椀類などの伝統的陶芸文化が失われた時代がある。特に1910年代から1945年までは日本の植民地時代として、当時は西洋的生産方法が導入され、主に必要な生活容器だけを制作した。しかし、芬院(李朝王室の器物を煇造した所：官窯ともいう)陶工の後裔たちによって京畿道利川郡、驪州郡(参照2：200-203)などに伝統陶芸の命脈が維持される。そして韓国は1950年代、つまり韓国戦争(朝鮮戦争)以後から1960年の初めは文化の暗黒期である。

B. 日本：日本は16世紀以後、発展した茶道文化と共に現代には各地方に陶芸産地、陶磁芸研究所が設立されており、1948年には米国美術文化の影響を受けた現代陶芸において、抽象表現を追求する京都を中心とした陶芸家たちが走泥社を結成して作品発表を始めた。

### 2. 1996年現在の両国陶芸文化の現況を通じて

A. 韓国陶芸の展開と現況：韓国では陶芸における大学教育の始まりとして、1960年に二年間の米国留学から帰国した権淳亭先生によって最初にソウル

大学の応用美術科で陶芸の講座が始められた。

また、その時徐徐に李朝王家の経営による芬院のあった京畿道利川郡、驪州郡などに伝統的様式の窯が復元され、最近、ここに現代陶芸産地が造成された。このような背景の中で1970年代には20数校の大学に工芸学科が設立され陶芸を教え始めた。現在、一年間に500名程の陶芸家が輩出されているが全体陶芸人口は一万名以下であると推測される。

そして国立陶磁試験所が一ヵ所しかなく、1994年になってソウル国立現代美術館で初めて韓国現代陶芸30年展を開催した。出品作家は30代から70代まで約130人が選ばれ、300点あまりの作品が展示された。

B. 日本陶芸の現況：日本の各地方には陶磁器産地、陶磁器試験所、陶磁研究所あるいは陶磁資料館などが散在しており、各地域の繁華街には陶磁器店が数多い。そして陶芸家および陶芸人口が約50万人以上であると思われる。

このような状況から考えてみると韓国は、まだ現代陶芸文化が青年期である。つまり、歴史的な宿命のため、やきものの文化が断切され、1960年代に現代陶芸として生まれ変わったがまだ生活容器文化が定着していない。そしてほとんどの陶芸家が前衛作品だけを追求するという問題点をもっている。

しかし韓国では、1400年代に書かれた文献である世宗実録地理志によると、1454年には全国の所所に陶器所185、磁器所が139ヵ所(参照地図2<sup>2)</sup>)散在しており、当時の人口は1000万人以下であった。この点から考えるとやきものが日常生活の食器として使われた事が裏付けられる。

それに対して日本の現代陶芸は400年程の長い伝

統を持っている。なぜなら1592年壬辰倭乱（＝朝鮮征伐）以後から茶道が盛んに流行し、また1602年には豊臣秀吉が晋州、金海、熊川、鎮海(参照地図2：347、341、351、349)の窯などを釜山窯に移築して燔造させた。この窯では日本の国宝である井戸茶碗および日本人の好みの茶碗などが数多く作られている。この時から日本は現代陶芸が始まったと思う。

日本は生活容器文化が存在し、陶芸家たちはこのような土台の上に前衛作品を追求するため、陶芸が発展する契機となった。これは日本の陶芸が持っている強い力であると思われる。

特に韓国、中国、米国、ヨーロッパなどは器の種類が少なく、いろんな用途として使われる。しかし日本は器の種類が多く、食べ物の種類によって器の形が形式化されている。これは今日の日本の陶芸が発展した大きな理由である。そして韓国陶芸教育は大学を中心となっているが日本は個人工房、研究所、試験所、大学教育など様々な機関を通じて行われている。以上のことは日本と韓国の陶芸文化の大きな相違点であり、韓国現代陶芸の発展が遅くなった原因とも言える。

このような原因の中、最後に申し上げたい事は日本には韓国伝統陶芸の名残が残っているが、韓国現代陶芸の成立は韓国の一世代である陶芸家たちの米国留学を通じて始まり、その基盤が米国であったことである。このことは今日、韓国現代陶芸が持っている大きな問題点でもあると思う。このような問題点を解決するため韓国は日本との交流を通じて、さらに韓国現代陶芸が伝統的基盤の上に成立できるように希望している。

高麗青磁窯跡分布図と李朝陶磁窯後分布図は資料原画が不鮮明のため割愛させていただきます。